

ドゾーンにボールが持ち込まれた時、または相手チームのエンドゾーン内でパスを捕球した時に、攻撃側に6点が与えられる。パスプレイは、レシーバーの体の一部がアウト・オブ・バウンズ(フィールドの外側)に触れていた場合は不成功となるが、TDでは片足をエンドゾーン内に残したまま捕球するか、捕球して着地した時に片足がエンドゾーン内に残っている場合は成功として認められる。ただし、NFLの場合は両足が残っていなければならないとされている。

・ポイント・アフター・タッチダウン (Point After Touchdown: PAT) :

TDをしたチームに対して、「トライ」と呼ばれる追加得点のための攻撃機会が与えられる。相手陣の3ヤードライン(ゴールラインまで残り3ヤードのライン)上、またはその手前(3ヤードラインよりも遠く離れた地点)であればどこからでも攻撃を開始することができる。

ランプレイまたはパスプレイでTDを獲得できれば2点、フィールドゴールが決まれば1点が攻撃チームに対して追加される。ランやパスよりもキックの方がプレイの成功率が高いため、フィールドゴールが作戦として選択されることが多いが、ゲーム状況に応じてTDをねらう場合もある。なお、守備チームが、パスをインターセプト(敵のパスを奪うこと。パスカット)または攻撃チームがファンブル(ボールを持ったプレイヤーがボールを落とすこと)したボールをリカバー(押さえ込んだり拾い上げたりして自チームのものにすること)して相手エンドゾーン内に持ち込んだ場合には、守備チームに2点のみが追加される(PATの権利は与えられない)。

・フィールドゴール (Field Goal: FG) :

地面に固定したボールを蹴る「プレイスキック」、またはボールを落下させて、地面に触れた直後に蹴る「ドロップキック」によって、ボールが相手ゴールポストのクロスバーを越えた場合には3点が与えられる。ただし、ボールが蹴られてからクロスバーを越えるまでにキック側のプレイヤーがボールに触れてはいけないとされる。

FGは、相手陣深くに攻め込みながらもフォースダウン(4回目の攻撃)でTDをねらうことは困難と判断される場合に試みられることが多い。FGが

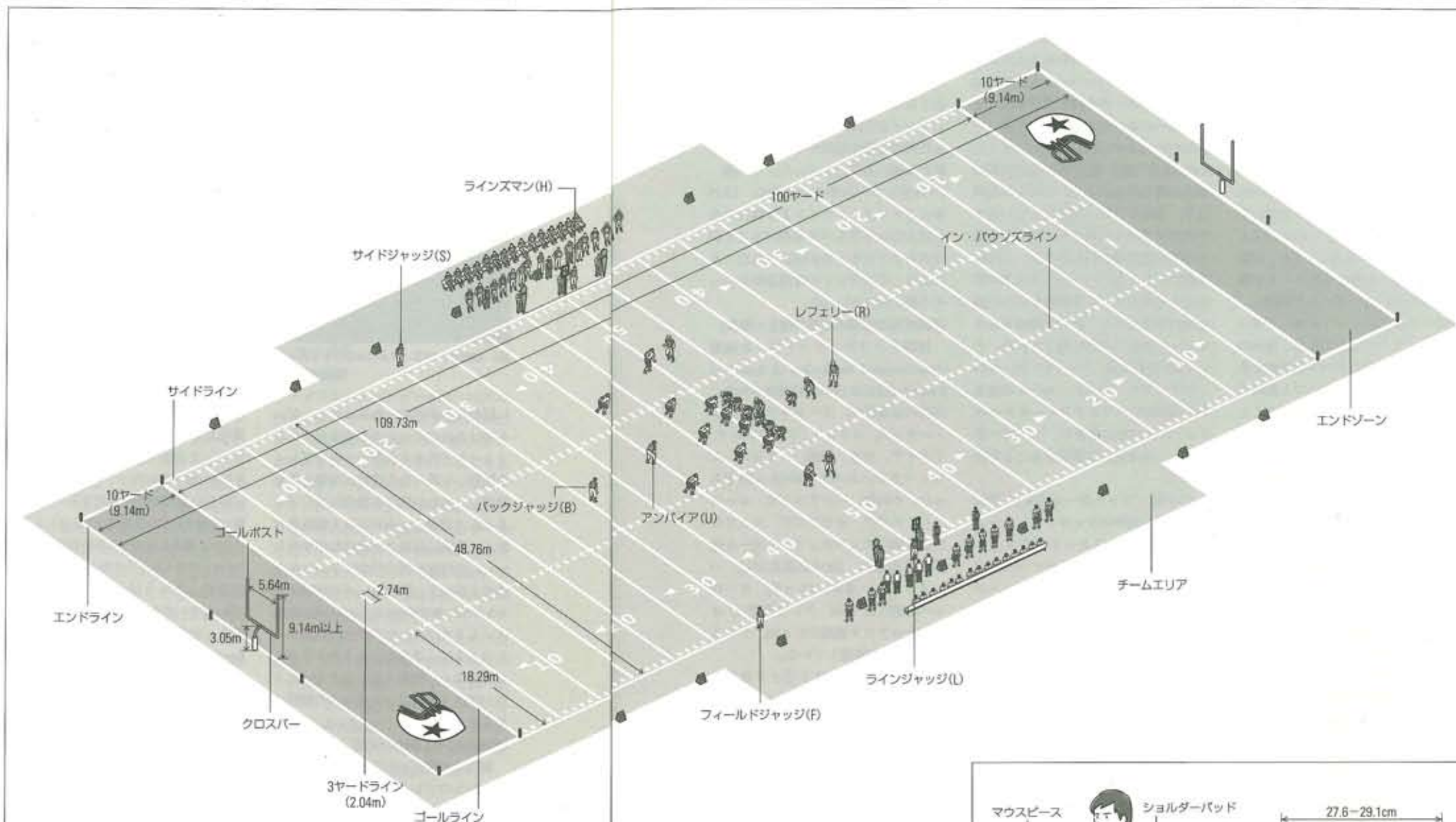


図2 アメリカンフットボールの競技場

失敗した場合には、FGを開始した地点にボールを戻して攻守を交代する(ただし、FGを開始した地点が敵陣20ヤードラインを越えていた場合には、20ヤードラインから相手チームの攻撃となる)。

・セーフティ (Safety: SF) :

自陣のエンドゾーン内でボールを持ったプレイヤーがタックルされた場合や、自陣のゴールラインよりも後方でボールをアウト・オブ・バウンズへ出してしまった場合には、守備チームに2点が与えられる。パスを投げるQBが守備プレイヤーにタックルされそうに

なって故意にパスを失敗させた時(インテンショナル・グラウディング)という反則もSFとなる。SF後は、得点されたチームによる自陣20ヤードライン後方からのフリーキックによりゲームを再開する。

[競技場・用具・服装]

ゲームは、サイドライン(109.73m)とエンドライン(48.76m)に囲まれた長方形のフィールドで行われる。それぞれのライン幅は10.16cmで、ライン上を含めたフィールドの外側がアウト・オブ・バウンズになる。フィールドの

両端にはエンドゾーンという得点エリア(9.14m×48.76m)があり、ゴールラインもこれに含まれる(そのため、ゴールライン上にボールの先端が少しでも入れればTDとなる)。また、攻撃チームが獲得した距離を明確にするため、ゴールラインと並行に4.57m刻みでヤードラインが、フィールド・オブ・プレイ(ゴールラインとサイドラインによって囲まれたプレイ・エリア)を3分割する形でイン・バウンズライン(通称「ハッシュ」)が引かれている(図2)。

使用するボールは、大きさが約27.6

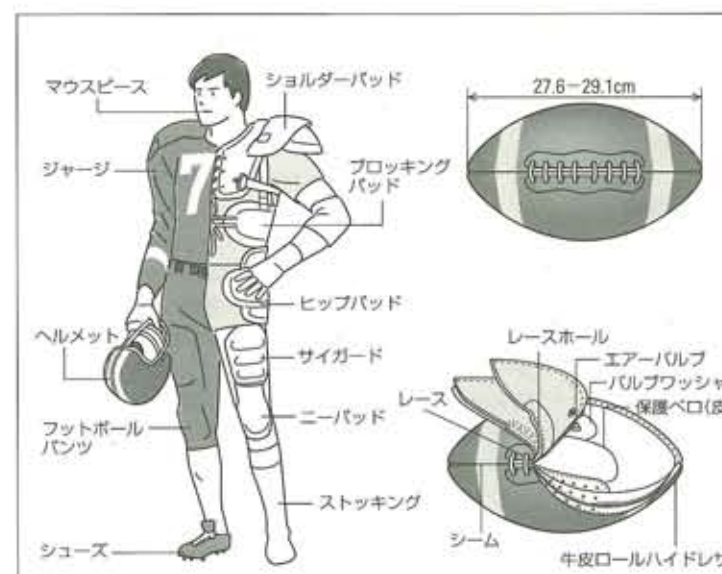
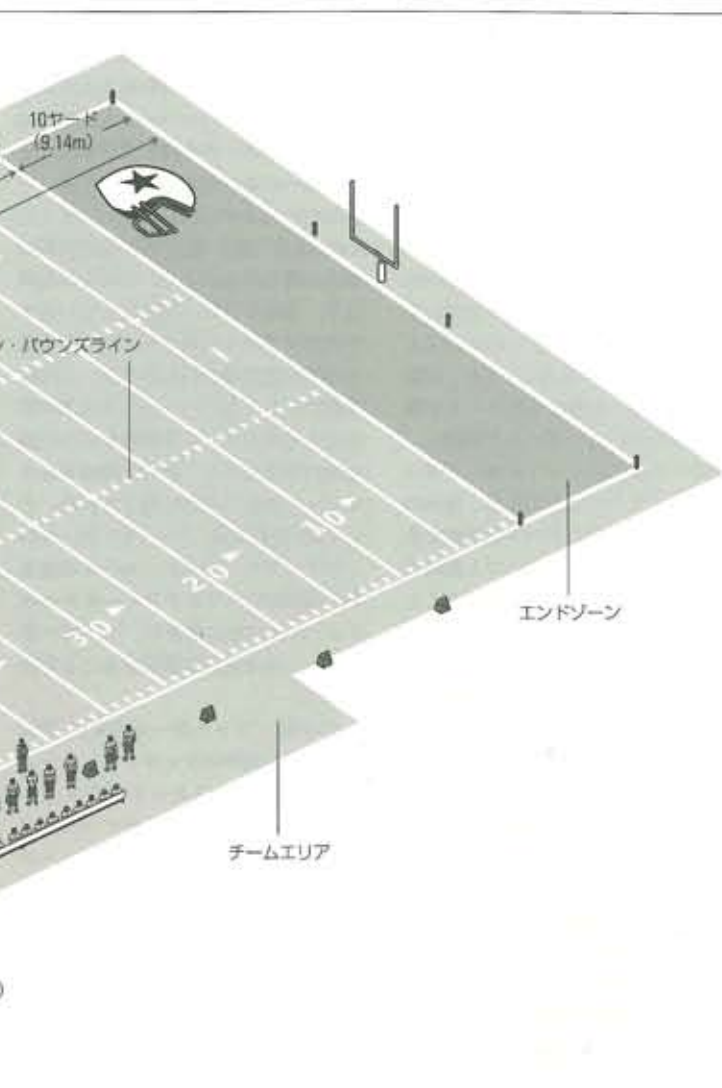


図3 防具の図解、ボールの図解